

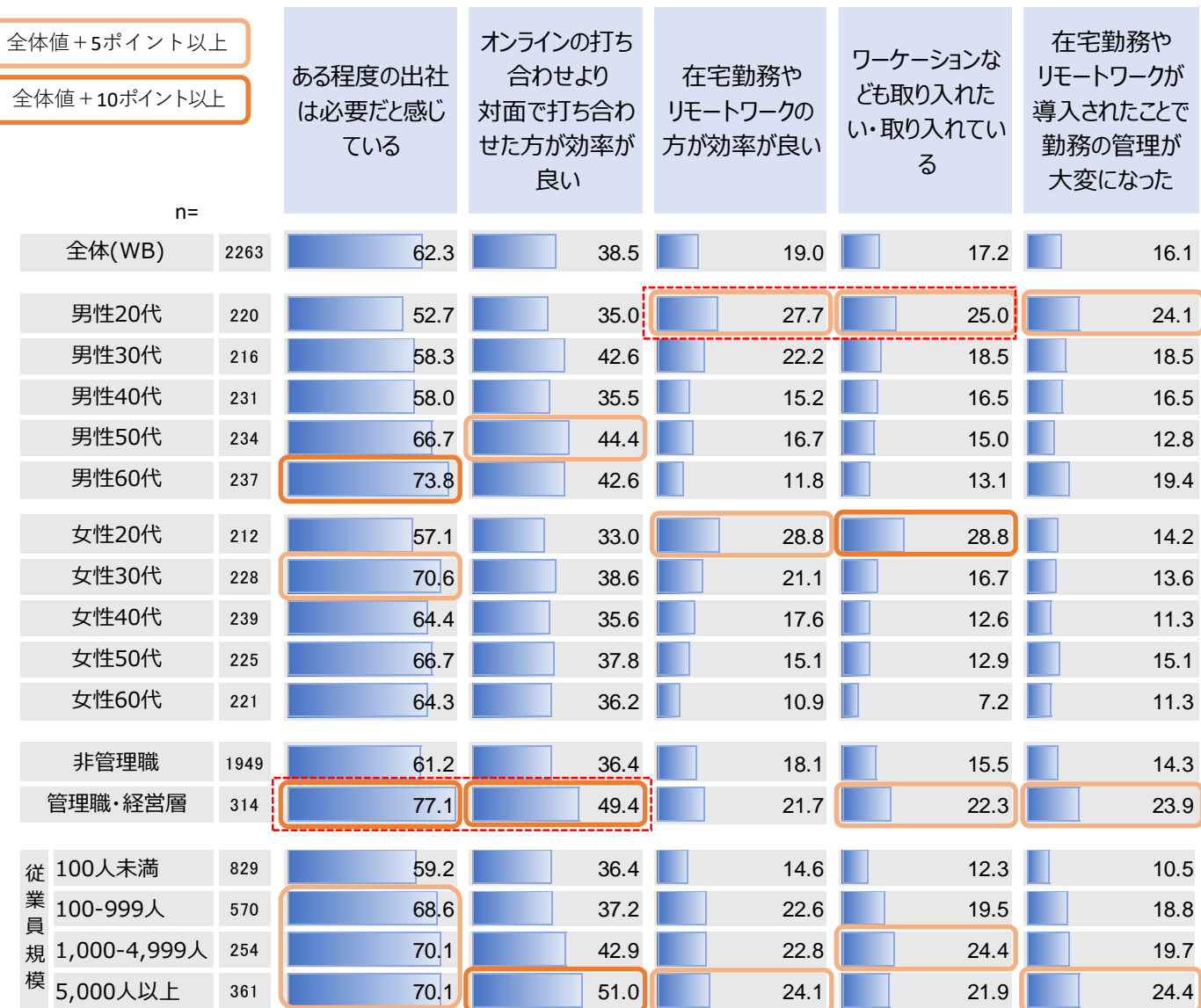
ビジネスパーソンの仕事意識 vol.1

コロナ禍でテレワークに順応した若手と、非対面の課題に直面している管理職

東名阪の主要都市圏在住のビジネスパーソン約2,000人を対象とした「ビジネスパーソン調査2020 ※11月実査」。今回は、ビジネスパーソンの新型コロナウイルス感染症流行下での働き方に関する意識や実態についてご紹介します。

本格的なコロナ禍となり半年以上が経過した今、改めてビジネスパーソンの仕事意識を見てみると、出社の必要性や対面での打ち合わせの効率の良さを再認識していることがわかりました。ただし、デジタルネイティブであり実務担当世代でもある20代男女は『在宅勤務・リモートワークの方が効率が良い』割合が高いほか『ワーケーション等』への関心もあり、テレワークに意欲的でした。一方、管理職・経営層では『対面打ち合わせの方が効率が良い』が非常に高い結果に。コロナ禍をきっかけに、テレワークに順応した若手と、非対面でのマネジメントという課題に直面した管理職との違いが浮き彫りになりました。

感染症流行下における仕事意識 新型コロナウイルス感染症の流行を受け、変化したことやあなたのお考えに近いものをお選びください。 ※「あてはまる」「ややあてはまる」計 (%)



※非管理職層…役職なし/主任クラス/係長クラス、管理職・経営層…課長クラス以上と設定

『ある程度の出社は必要だと感じている』は全体で62.3%となり年齢が上がるほど割合が増加します。また管理職・経営層および従業員規模の大きな会社から高くなる傾向が見られます。『オンラインの打ち合わせより対面で打ち合わせた方が効率が良い』は全体38.5%で、こちらも管理職・経営層や従業員規模の大きな会社の人が高くなる傾向となりました。『在宅勤務やリモートワークの方が効率が良い』は全体で19.0%にとどまるものの、若年層で高い傾向があり、男性20代・女性20代では3割近い値となりました。『ワーケーションなども取り入れたい・取り入れている』については『在宅勤務やリモートワークの方が効率が良い』の回答者とほぼ同じ傾向となり、20代男女や管理職・経営層で高めにしています。『在宅勤務やリモートワークが導入されたことで勤務の管理が大変になった』でも、管理職・経営層や従業員規模の大きな会社の人が高くなる傾向にあり、2割を超える結果となりました。